

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年7月13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892800012		
法人名	有限会社 なかよし		
事業所名	グループホーム なかよし	ユニット名	1ユニット
所在地	〒306-0626 茨城県坂東市小山2131-5		
自己評価作成日	平成23年11月24日	評価結果 市町村受理日	平成24年7月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0892800012&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年1月19日	評価確定日	平成24年6月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>グループホームの中だけの生活にとどまらず、屋外への散歩・外出など積極的に行うようにしている。入り口は、常に開放し地域の方々がいつでも訪ねてこられ、自由に交流できるようになっている。また、面会時間を決めないことにより、ご家族がいつでも気軽に面会出来るように取り組んでおり、大変好評を得ている。施設の行事に毎年、入居者・ご家族・近隣住民の方々との交流を深める意味も含め地域交流会を行っているが、年々参加者が多くなり地域での行事の一つとして認識していただけるようになってきている。また、食事に提供する野菜類は、自家菜園で栽培しており入居者は、目で見て・触れてみて・味わってみてと五感を刺激するような支援に取り組んでいる。庭には花壇、施設内には花を絶やさず飾ったり、昨年からクリスマスのイルミネーションも取り入れ、地域の方々も共に喜んでくださり、ばんどうイルミネーションファンタジー2010に選ばれ感謝状をいただきました。常に日々の暮らしの中で季節感を感じて頂けるようにしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>地元で訪問介護事業所を運営している施設長が開設したグループホームである。 認知症の利用者が自宅からこのグループホームに入居しても、入居前と同様に住み慣れた地域の中で馴染みの関係が継続できるように支援をしている。 玄関脇で犬を飼い利用者が動物とふれ合えるように支援をしているほか、自家菜園を設けて野菜を栽培するなど季節が感じられるように工夫をしている。 事業所で地域交流会を開催し、家族等や近隣住民が来訪し易い工夫をしている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ理念を作成。玄関に掲示している。ミーティングや研修会で唱和し意識を高め実践出来るよう取り組むと共に職員は、いつも明るい雰囲気の中で快く入居者・ご家族の話を聞き、すべての人が笑顔あふれる施設作り努力している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し玄関に掲示するとともに、職員はミーティング時に理念の共有を図り、実践に取り組んでいる。 職員は地域とのふれ合いを大切に、利用者が家庭的な雰囲気の中でその人らしくゆったりと生活ができるよう理念にそった支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区長さん、民生委員さんの協力を得て、年3回地域の方を招いて交流会を開催している。その際には、地域の方やボランティアの方が催しものを行って下さったり、ご家族の参加もあり交流を図っている。自治会にも加入し行事や清掃活動にも参加している。入居者と職員と一緒に散歩をすることで住民と顔馴染みになり、見守り・声を掛けてくださる。	近隣住民を招待してボランティアによるアコーディオンや琴演奏の地域交流会を開催し、利用者や家族等、近隣住民が楽しみながら交流する場となっている。 地域交流会で顔馴染みになった近隣住民が利用者の散歩時に温かく見守ってくれているほか、利用者が一人で出かけた場合には事業所まで連れて来てくれるなど、協力関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流会や散歩などで顔馴染みとなり、お互いに声を掛け合い、認知症の理解も深まるようになってきている。運営推進会議には、行政、地域の代表、ご家族代表の参加があり、その際に認知症・介護の事などで相談・質問について質疑応答の時間を持つようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。毎回入居者代表、ご家族代表、地区長さん、民生委員さん、介護福祉課職員、地域包括センター職員の参加があり、施設の活動報告をしたり、お互いの意見交換の場となり、サービスの質の向上にいかしている。運営推進会議議事録も作成している。	運営推進会議は利用者や家族等、市職員や地域包括支援センター職員、区長、民生委員、施設長、管理者で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用状況や行事報告をしているほか、これからの行事計画などを話し合い、委員から出た意見や要望をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市担当者へ電話連絡や訪問を行い、入居状況や相談をしている。施設のパンフレットを置いて頂き地域の方に情報を提供してもらい協力いただいている。	市担当者が運営推進会議に参加しているほか、管理者は電話や訪問などで市担当者に利用状況を報告したり、生活保護受給利用者に関しての連絡を取り合うなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束の具体的な行為を研修会で話し合い身体拘束の弊害を理解している。玄関には、身体拘束廃止に向けての方針を掲示している。「話を良く聞いて、寄り添うことにより拘束しないで済む」という施設長の理念のもと玄関、門扉は、施錠せず外出したい方には意志を尊重し職員が同行したりしている。	玄関に身体拘束排除に向けた事業所の方針が掲げられている。 身体拘束排除に向けた勉強会を年間研修計画に組み入れて実施し、身体拘束をしないケアを実践している。 夜間以外は玄関をはじめ非常用ドアも施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の研修を行い、虐待の理解を深め身体的虐待、心理的虐待などを防止するように、管理者や職員が目を配るようにしている。職員の精神面や言動に変化があれば話し合いを行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度を研修会で資料を配布し学んでいる。ご家族の状況に合わせ施設長に相談し社会福祉協議会と連携するようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時の契約などは、入居者、ご家族のご希望を充分お伺いし自宅での生活、生活パターン、困りごとや不安に感じるなどアセスメントを行い説明をして理解・納得をいただけるようにしている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時や、面会時・施設の行事の際にも、管理者、職員は、ご家族のご意見や要望を聴くように努めている。ご家族にアンケートをお願いし集計を行い問題点・改善点がないか話し合っている。その結果を運営推進会議で報告するようにしている。	月1回の利用料支払時や行事の時に家族等の意見や要望を聴くよう努めている。 運営推進会議では家族等の代表から意見を聴く機会を設けており、出た意見等を運営に活かしている。 家族アンケートを実施し集計した結果を運営推進会議で報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は、職員の個人的事情も含め、常に話し合う事が大切と考え声かけしている。管理者・主任は、意見を出し易い関係づくりに努めている。出た意見等は、記録している。	代表者は訪問介護事業所や居宅介護支援事業所なども運営しており、日に何度か事業所に立ち寄り職員に声をかけている。 管理者は職員からの意見や要望をよく聴き、ミーティング時に話し合ったり、代表者に報告して対応するなど運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会や話し合いの場を設け、給与、労働時間、不満や精神的ストレスがないか等意見を聞き常に職員が仕事をしやすい環境を整えるようにしている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会や講習会への参加を支援し施設内研修の実施、職員間でも介助方法や接し方など良い方法を考え話し合いながら、お互いがスキルアップできるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域施設部会等に参加し勉強会をしている。他施設の方との交流をもち、お互いの情報交換をしてネットワーク作りをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人の話を良く聞いて安心していただけるようにしている。常に困った事、不安な事、して欲しい事などを聞きながら慣れていただけるよう職員との関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接や見学・訪問時に自宅での過ごし方や状態、困りごと、不安なことなどを聞いている。ご家族が自宅で大変だったと思う気持ちに寄り添いながら、良い関係を作るように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、ご本人、ご家族との十分な話し合いで要望、状態にあった支援の方法を考え、福祉用具、理容サービス、訪問歯科等必要なサービスについても取り入れるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の昔の風習や生活の知恵を教えてもらうことにより、尊重し寄り添いながら、共に暮らす家族のような関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に面会時やお電話で近況をご報告したり、運営推進会議にはご本人とご家族に出席していただき、活動報告、近況報告をしている。家族会開催時には、ご本人とご家族の団欒の場を設け、絆を大切にしながら共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間に制限はなく、ご本人が大切にしてきた知人、友人、親類の方々には気軽に面会に来ていただき、居室で談笑したり居心地よく過ごしてもらっている。お盆、お彼岸など外出を希望する場合は、ご家族に連絡を取りご家族や馴染みの方と過ごす時間をつくるようにしている。	家族等や馴染みの人が来訪し易いように、朝8時から夜8時頃まで面会ができるよう柔軟に対応している。 利用料の支払いを現金払いとし、月1回は家族等に来訪してもらい足が遠のくことが無いように工夫をしている。 利用者からの希望を家族等に伝え、馴染みの人に会ったり、自宅に一時帰宅できるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を理解し、職員が必要に応じて関わり、トラブルにならないようタイミングを図り声掛けをして、お話ができる場を設けたり、一緒に行くレクリエーションなどをして孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の希望で看取りの入居者がおりました。主治医とご家族との連携を行いながら対応しました。ホームで最期を穏やかにむかえたことにご家族も感謝してくださいました。身寄りのない入居者には、市役所との連携を行い、ホーム内で葬儀を行いお見送りまで関わりました。退所後も相談や来訪を受け入れるようにして他のサービスが必要な場合には、サービスの紹介を行うようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、常に声をかけたり、話を良く聞き表情や日常会話などから本人の意向など伝えやすい環境づくりに心掛け、把握するように努めている。ご家族等の面会時には、話を聞き、家にいた時の事や本人の意向、希望などの情報を得ようとしている。	入居時に利用者や家族等から話を聴き、利用者の思いを把握しているほか、普段の会話や表情から思いを汲み取り、利用者本位に対応している。 思いや意向の把握が困難な利用者の場合は職員が日頃から寄り添い、感じ取った思いを利用者本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、入居前のケアマネジャーの方などから生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等情報収集し、ご家族や職員と共有しながら支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックを行い、職員全員が心身の状態把握に努めるようにしている。表情・発言・態度などから体調や様子の変化に気づき対応できるように心掛けている。一人々の日々の状態に合わせた支援に取り組んでいる。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時には、ご家族と本人の意向を良く聞き、課題・ケア内容を考え計画を立てるようにしている。入居後も日々の生活の中から本人ご家族等とご相談しながら、職員の気づいたことや意見を取り入れ介護計画を作成し、ご家族の同意を得ている。	介護計画は要介護更新時に介護支援専門員が家族等や主治医、職員から話を聞いて作成している。 月1回のミーティングでモニタリングを行うとともに利用者の状況を話し合い、心身の状態に変化が生じた場合は介護計画を見直している。 介護計画作成の重要な資料となる介護記録には、食事や服薬、排泄、入浴などの状況が記録されているが、一日を通しての職員による援助記録の記入が少ない。	介護計画作成にあたっては利用者の状況と課題の把握が重要となるため、介護記録の援助記録欄に利用者の日常の状況を細かく記入することを期待する。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録の際、ケアの実践・バイタル・排泄チェック・食事量・気づきや工夫した事を記入し、職員と話し合い情報を共有しながら、日々の生活に取り入れ活かすように支援を行い、介護計画の見直しなどにも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況・希望に合わせて、ご家族との外出・外泊などを支援している。面会時間を決めず心配な時などは、宿泊できる体制も整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ギター・フラダンス・そば打ち・アコーディオン・地区の主婦の方々などの踊り等ボランティアとの交流をしている。また、主治医の先生が歌を披露して下さったり、馴染みの方の来訪を入居者の方々は、とても喜んでいる。職員と散歩する事により、ご近所の方と顔馴染みとなり、散歩の途中でのお話を楽しみにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人・ご家族等に協力医院を主治医とすることを説明し、同意を受けている。週1回の訪問診療や状態変化や緊急時には24時間連絡が取れる体制となっている。他専門医受診は、家族等の支援をお願いしているが、家族等の事情に応じて付き添えるよう支援している。	契約時に利用者や家族等にかかりつけ医を協力医療機関の医師に変えることを口頭で説明し、利用者全員から同意を得ている。週1回協力医療機関の医師による訪問診療を支援しているほか、利用者の状態に変化が生じた場合はいつでも適切な医療が受けられるように支援をしている。皮膚科や眼科の受診は家族等の付き添いを基本としているが、家族等の都合が悪い場合や緊急時には職員が対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員に、入居者の日々の健康状態や変化・服薬の仕方などを相談したりと連携を図り、対応できる体制をとっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医以外にも、協力医院としての医療機関も定めている。入院処置が必要となれば、主治医と連携をとり対応することになっている。早期に退院できるよう医療機関の主治医、相談員等と連携し、必要に応じ入院先に出向きリハビリの指導・退院後の注意点等を伺い、受け入れの体制を整えるようにしている。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や、看取りに向けた施設の対応方針を作成するとともに、契約時にご家族等に説明している。終末期の段階になった時には、ご家族の希望を再度確認し、希望に添った終末期を送れるようにしている。看取りに向けて医師と24時間の連絡体制を築いている。また、看取りに向けた職員の意思と知識習得のため看護師を交え研修会を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて応急処置・初期対応ができるように研修などを行っている。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと年2回消防避難訓練を実施し、市職員や近隣住民の協力を得ている。災害時に備え発電機・飲料水・食糧・卓上コンロ・簡易トイレ・懐中電気・救急用品・カイロ等を備えており、東日本大震災の時の停電時には発電し、暖を取り、食事を取り難を乗り切ることができました。消防署の指摘には、すぐさま対応し建物外部に音で知らせる警報器を取り付け緊急時に地域の協力が得られるようにし、センサーライトをつけたり、外部手すりを取り付けたりと対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者を人生の先輩として尊重し、昔の風習や生活の知恵・節の行事に関することなどを聞いたりしている。一人々に対して言葉遣いや対応に気をつけ、プライバシーを損ねないように努めている。入居者の書類は鍵がかけられる事務所に保管している。	職員は利用者を地域の古者として敬い、尊重した対応をしている。 プライバシーに配慮し、リハビリパンツは各自のクローゼットに置くとともに、車いす使用の利用者の場合は椅子の収納部に収納して持ち運び、人目には触れないように配慮している。 契約書や個人情報に関する書類は事務所内に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者それぞれにあった声掛けや対応を心掛け「なにがしたいのか」「なにを望んでいるのか」思いを理解し、本人が表現しやすい環境作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、状態にあわせ本人の希望を大切にしながら、入居者それぞれのペースでゆったりと過ごせるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者と一緒に選んだ洋服を着て頂いたり、本人、ご家族の希望により地域の理容店や美容室に出掛け、パーマや毛染めをしたり、訪問理容サービスの利用などを行っている。その方らしいみだしなみやおしゃれを楽しむ事ができるよう支援している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で収穫した季節の野菜を食材に取り入れ、どのような料理にしたら良いか一緒に考えて得意だった料理を手伝っていただいたり、漬物を漬けていただいたりしている。作る楽しみ・食べる楽しみも大切にしながら、楽しく食事ができるよう支援している。	献立は毎回職員と利用者が一緒に考えて決めている。 自家菜園で収穫した季節の野菜を食材に取り入れている。 利用者の重度化に伴ない調理や配膳は職員がしているが、利用者は時には職員と一緒に自家菜園で採れた大根を切ったり、干して切り干し大根を作っている。 職員は弁当を持参しているが、利用者の食事介助をしながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や職員が、入居者の状態、好みに配慮し、美味しく食事が摂れ栄養バランスの良いメニューを考えている。水分摂取は、状態に合わせて回数を増やしたり、飲み物を変えたり工夫しながら摂取していただいている。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで介助し、義歯の洗浄、歯磨きはできるだけご自分でやっていただけるようにしている。口腔内の清潔を保つようにしている。必要ならば訪問歯科に診察してもらう。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録で排泄パターンや生活のリズムを把握しトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を勧めできるだけ自立していただけるようにしている。立位が困難な方もトイレで排泄ができるよう職員が2人介助で行っている。	職員は排泄チェック表を活用するとともにタイミングを見計らってトイレへ誘導し、トイレで排泄ができるように支援をしている。 職員は利用者の様子やそぶりから排泄のサインを察知し、さり気なくトイレへ誘導している。 夜間でも自立して排泄ができるよう、居室にポータブルトイレを置いている利用者もいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自家菜園で収穫した野菜を食事メニューに取り入れ食物繊維を多く摂取していただいている。多目の水分補給とヨーグルト・バナナなどを勧めている。また、体操・散歩・生活リハビリをして予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週3回となっているが、毎日用意し入居者の体調・希望に応じて対応している。菖蒲湯・ゆず湯など入浴を楽しんでもらえるようにしている。医師の指導により終末期であっても、できるだけ湯船に入っただけよう2人介助で行っている。	利用者を2班に分けて、週3回入浴ができるように支援をしている。 曜日に係わらず利用者の希望や必要に応じた入浴ができるよう風呂は毎日用意している。 終末期であっても医師の許可があれば入浴ができるように支援をしている。 季節に合わせて柚子湯や菖蒲湯が楽しめるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動やレクリエーションや散歩などで夜間の睡眠がとれるようにしている。日中も部屋で休んだり、テレビを見ながらソファで横になって休んでいる。各部屋の室温は、本人が過ごしやすい室温にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの十分な説明と薬局薬剤師との連携をしている。薬の作用、副作用を理解し服薬介助、服薬確認、服薬後の観察をしている。薬が変更されたときは、ご家族にも伝え、職員も把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自家菜園で収穫した野菜の下ごしらえをしたり、漬物が得意な方には、漬けて頂いたりしている。花壇の手入れもやり方を教えてもらいながら一緒にしている。洗濯物も出来るだけ自分のものは、たたくように勧めている。誕生会のケーキは、デコレーションしてもらい喜んでいただいている。カラオケや散歩も楽しみの一つとなっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望・体調・天候に合わせ散歩に出掛け、地域の方と触れ合う機会を作っている。庭に出てお茶を飲んだりしている。季節行事の花見・部落の盆踊りなど職員が同行し、その際には外食をしたりしている。帰宅・外出の際にはご家族の協力を得ながら支援している。	利用者は天気が穏やかな日は職員と一緒に自家菜園の周りや近くの利根川周辺を散歩しているほか、近隣にあるコンビニエンスストアへおやつを買いに出かけている。職員は利用者が外出を楽しめるよう車でショッピングセンターへ出かけたり、菊まつりの帰りに外食ができるように支援をしている。盆や彼岸は家族等の協力を得て墓参りができるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は、自分で管理し買い物・美容室の支払い等、ご家族の了承のもと本人がされている。出来ない方は、必要に応じご家族にお願いしたり、施設で立て替えるなどの支援をしている。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族や知人等に電話をかけたいと、希望があれば事務所の電話を使っている。手紙のお返事を書いていただき離れたご家族とのやり取りができるよう支援している。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居間・トイレ・食堂には、庭で咲いた季節の花を絶やさないように生け、廊下・食堂の壁には行事の写真、ちぎり絵などを飾っている。また、金魚・熱帯魚や犬を飼い癒しの一つとなっている。季節を感じて頂ける様、こいのぼりやクリスマスイルミネーションも取り入れている。玄関・食堂に加湿器を置き湿度に配慮したり、音楽を流し和みの空間を得られるようにしている。	共用空間には季節の花鉢が置かれ、廊下の壁には行事の写真が飾られている。四方の窓からは四季の移ろいが眺められる。食堂に自然木の大きなテーブルを置いて落ち着いた空間づくりをするとともに、利用者が思い思いに寛ぐことができるようにソファを設置している。利用者の希望を受けて、カラオケが楽しめる一角を設けている。利用者は職員と一緒に自家菜園で季節の野菜を栽培し、成長の過程を楽しんだり収穫の喜びを味わっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内で趣味の時間を過ごしたり、面会の方が来たときは部屋でゆっくり気兼ねなく過ごしていただいている。気の合う方を部屋に招いてお茶を飲みお話ししたりしている。ロビー・廊下に櫛の椅子を置きそこでお話を楽しんでいる。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、床暖房を備えている。ご家族等の写真を飾ったり、馴染みの家具・テレビなどをご家族と相談しながら置かれている。亡きご主人の写真を飾られて、お水・お花を供える方もいる。	利用者や家族等の希望にそってベッドを使用したり、布団を使用することができる。利用者はテレビや鏡台など使い慣れた物品を持ち込み、自宅での暮らしを継続しながら居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、段差がなく玄関・トイレ・廊下・食堂には手すりを設置している。「車椅子使用を出来るだけしない」を目標に環境を活かし時間がかかっても、筋力が低下しないようできることは、見守りながら行っていただくよう支援している。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームなかよし

作成日 平成24年7月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		介護記録の援助記録欄に利用者の日常の状況が細かく記入出来ていない。	職員が援助記録に利用者の日常の状況を細かく記入する。	介護記録の様式・記入方法について検討会議を開催して改善を図る。	検討会議 2月の会議開催時
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。